

## 全教定通部「中国・四国・九州ブロック 2014 学習交流集会」報告 2014年11月1日(土)～2日(日) 山口市湯田温泉

- (集会) カリエンテ山口 (山口県婦人教育文化会館)  
(交流会・宿泊) セントコア山口 (公立学校共済組合山口宿泊所)  
(講師) 加来洋一 (こころの医療センター副院長)  
(参加者) 岡山1名、香川4名、佐賀2名、長崎6名  
山口27名 合計41名  
(本県参加者) 濱本功二 (佐世保中央夜) 鈴木奈尾子 (鳴滝通)  
田中玲子 瀧上隆 (長崎工定) 他2名

11月1日(土)

14:15～

開会行事

14:30～15:20

実践報告「高校の定通教育の課題と『困っている』子どもたち」  
宇部工業高校定時制 豊田和典さん

15:30～17:00

講演「定時制通信制の生徒が抱える問題について～医療現場から～」  
講師：山口県立こころの医療センター 副院長 加来洋一さん

(1) 児童思春期外来から見た定時制通信制

- 1) 梅雨場に荒れる／騒がしさが苦手 → 感覚過敏のケースが多い。
  - 2) 学校規模の問題は大きい。
  - 3) 不登校の理由
    - ①睡眠の問題 睡眠障害 不眠症、過眠症 → 医者の診断がばらつく
    - ②むずむず足症候群 (寝ようとすると足がむずむずする)
    - ③ナルコレプシー (緊張すると眠気が来る)
    - ④周期性過眠症
    - ⑤昼夜逆転
    - ⑥起立性調節障害、心身症、うつ病
    - ⑦場面緘黙 (学校へ行くと全然しゃべらない。友達とは楽しそうに話している。)
    - ⑧強迫性障害 (手を何回も洗う。)
- 巻き込み型／自己完結型→外の物を持ち込むと不潔だと思う。
- ⑨双極性感情障害／統合失調症 — 高校に集中。(いい薬がでている。)
- 4) 現状
- ①症状があっても受診していない事例もある。
  - ②受診を勧めるべきか? → 本人がどれだけ困っているか?
  - ③過去に受けてきた支援やアドバイスの確認
  - ④医師や医療機関によって診断が異なる場合がある。
  - ⑤背景に見つかっていない発達障害や確認されていない迫害体験 (虐待・いじめ) がある可能性。

## (2) 児童福祉の立場から見た定時制通信制

- 1) 自己感情を大切にする。安全の保証が大事
- 2) 暴力 恐喝 性的いたづら

始まった時期：一般に始まった時期が早いほど遷延しやすい。単独か集団化？

### 3) 児童相談所や少年鑑別所にいる子どもたち

- ①規範意識の乏しさ・家族の文化
- ②虐待の被害者が加害者になってしまう
- ③過覚醒 再体験 衝動コントロールの困難 → 本人はコントロールできない。
- ④安全だと分かれば落ち着くこともある。
- ⑤保護者が子どもの情緒面を拾えない。
- ⑥就学前の虐待は脳に影響を残す。  
→ 立場の弱い人には強く当たり、自分より強い人にはすぐ謝る。
- ⑦学校で安全な大人に出会うことは大切。
- ⑧安定した人間関係が築けない → 感情や体験の言語化が苦手  
知的な問題、情緒面の問題、振り返りや経験からの学びが困難。
- ⑨安定した対人関係が築けない → 大人との信頼関係の難しさ、侵入されることへの不安、一人になれない：過剰な依存や性的関係、関わりを被害的に受け止めやすい。

### 4) 児童相談所や少年鑑別所を経験した子どもたちを支えるために

- ①少なくとも「敵」ではないことを知ってもらう。
- ②侵襲的にならないように接近する  
→ 初めのうちは短い時間話す。子どもがたくさん話したときは用心する。
- ③挑発や試し行動の意味を同僚と考え共有する
- ④一緒にいて落ち着きやくつろぎ、安心感を共有する。

## (3) 定時制通信制で適応する子ども・適応しない子ども

### 1) スクーリングに参加できない

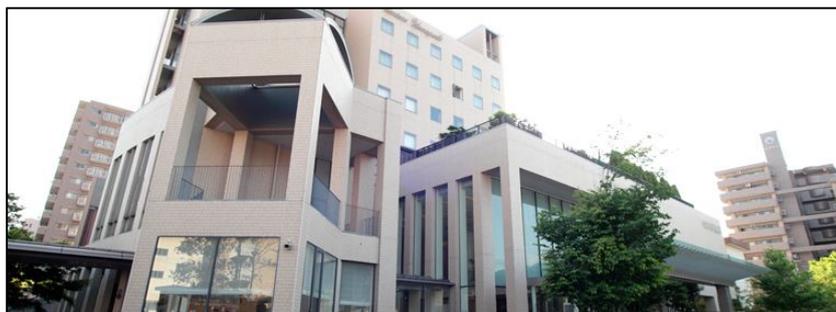
小学校の挫折体験から時間が進まない

### 2) 単位数やレポートが間に合わない

- ①広汎性発達障害（アスペルガー症候群）の傾向
- ②集団適応の評価 → 適応できる人数や密度／集団の何が苦手？
- ③アスペルガー → 時間感覚がない
- ④危機感や焦りが無い
- ⑤時間の先読みが困難

### 3) LDのDとは？

- ①Difficulty：能力・環境・障害などの複数の要因  
Disability：特異的な能力の低さ  
Disorder：疾患(Disease)
- ②IQが高いのに単位の取り方が分からない生徒もいる。  
綴りが記憶できない／綴りと意味が繋がらない  
「シとツ」「ソとン」の区別ができない



(感想) 生徒には、学校に安心できる大人がいるということを実感させることが大切だと話していた。また、子どもとの距離感を保つことが大事で、子どもが饒舌になって多くを話すときには用心すること、同僚との共通意識を持つこと。などの言葉が印象に残った。(濱本) 18:30～ 夕食交流会

11月2日(日)

9:30~11:30 各県交流

(1) 就学支援金、奨学給付金について

- 1) 申請後退学した場合、10月1日時点に在籍していたらもらえる。
- 2) 所得証明を取るのが面倒。
- 3) 学費を払ってしまうと奨学給付金をもらえない。
- 4) 来年度は1,2年になるのもっと大変。
- 5) 所得証明を取るのはせめて6月のみにしてほしい。
- 6) 離婚か死別かを書く欄がある。離婚の場合「いつ頃離婚か」を書かなくてはならない県もある。プライバシーの問題が生じる。

(2) 統廃合問題について

- 1) 香川県は統廃合が進んでいる。小豆島では2校の定時制が1校になっている。
- 2) 長崎県の鳴滝高校通信制はテレビ授業(双方向)を導入。生徒の声が聞こえなかったり、生徒の姿が小さくて見えにくいなどの問題がある。
- 3) 岡山県は統廃合が一段落したところである。
- 4) 統廃合の反対署名をPTAでとりこんでいる?
- 5) 山口県は2005年から10年かけて再編計画。今年が10年目だったが、持ちこたえた。
- 6) 長崎工業は近くにあるので定時制の入学した生徒が多い。通学費の問題が大きい。

(3) 高校における特別支援教育

- 1) 山口の宇部工業高校は保護者の了解を取ってIQテストをしている。SG式高校知能検査(山口県の子会社)。保護者への文書には、「知能検査」とはっきり書いた。
- 2) 発達障害、多動など特別支援を要する生徒のどう対処すべきか?  
→他の生徒には最良に見える場合もあるが、理解させると配慮になる。担任が知っているだけでは足りない。
- 3) 生徒に伝えるべきか?  
→配慮も言える配慮と言えない配慮がある。教員として(判断が)難しい。
- 4) 色弱検査をやっているか? → 宇部工業1,2年はやっている。
- 5) 色弱検査は、やってもやらなくてもいい。(岩国商業高校定時制養護教諭)  
保護者の同意書、学校医の同意書、管理職の同意書が必要?

11:35~ まとめ・閉会

閉会后、中原中也記念館見学  
(希望者)

来年は香川県で開催されます。皆様の御参加をお待ちしております。



本県からの参加者

## 「参加者の感想」

### 濱本功二（佐世保中央夜間）

情緒豊かな湯田温泉で開かれた学習交流集会に参加しました。日頃接している生徒が抱える問題や指導について考えることが多い有意義な研修でした。

特に山口県こころの医療センターの加来洋一さんの講演は生徒と接していく上で非常に参考になる話で、長崎県の定通部の教職員の方にも是非聞いてほしい話でした。

来年は香川県で開催されます。少し遠いですが、多くの方に参加していただけたらと思います。

### 田中玲子（長崎工業定時）

1月1日（土）から2日にかけて、山口市で「全教定通部中国四国九州ブロック学習交流集会」が開かれた。久しぶりに県外に出てみようという気になり、参加した。

1日目、特急と新幹線を乗り継ぎ、ディーゼルカーに乗った時、「ああ、本州に来たんだ。」と思った。「～ええよ。」という言葉に、「～よかよ。」という九州弁にはないニュアンスを感じたのだ。

開会行事、諸連絡の後、「高校の定通教育の課題と『困っている』子どもたち」と題して、宇部工業高校定時制の豊田和典さんの実践報告があった。中味の濃い報告だった。長崎県では、始まったばかりのスクールソーシャルワーカーとの連携についても言及され、考えさせるものがあった。

次に、「定時制通信制の生徒が抱える問題について～医療現場から～」と題して、山口県立こころの医療センター副院長加来洋一さんの講演があった。長崎純心大学に何年前か前いらっしやって、名前を聞いたことがあったので、この講演を聞きたいと思ったのも、参加した理由の一つである。「医療現場からすれば、月に何回か何分か診察だけれども、学校は（特に定時制は）毎日の接触があるから、学校での支えが重要だ」と指摘されたとき、生徒が通院しているだけでつい安心してしまっている自分に気づいた。「医療との連携」について、再認識させられた講演であった。

夜の交流会で、実践報告をした豊田さんとたまたま隣になって、組織率の話になり、「山口は中間部の谷間があるけど、若者が入っている。」と話を聞き、本部から聞いていた「他県では若者が入っている」ことを納得した。

2日目の各県交流では、「現代の高校生の生きがい」「就学支援金・奨学給付金」「統廃合」「高校における特別支援教育」「その他」のテーマで話し合った。各県同じところ、違うところ、いろいろあって興味深いものだった。特に各種検査について、知りたいと思っていたことが話題になっていい情報を得られた。

最後に中原中也記念館への案内もあり、有意義な2日間であった。



### 鈴木奈尾子（鳴滝通信）

湯田駅前から「送迎車」は青年組合員の運転する自前のワゴン車でした。会場にもちらほらだが若い人の姿が見ることが出来「若い力」が随所に感じられました。

加来先生は講演で「精神障害について、正しく理解し、怖がらずに共に生活して欲しい。」と述べられました。山口、香川、佐賀などの先生方とも語り合い、「県は違っても思いは同じ」ということを確認することができた学習会であった。